じゃらん リサーチセンター

とーりまかし

別冊

研究年鑑 2016

RECRUIT

テーマ 5

全国規模のコミュニティに拡大し、
各地展開に向けたメソッド化も進行中

地域コ・クリエーション（共創）研究2016

研究員
三田 愛
Ai Sanda

全国規模のコミュニティに拡大し、各地展開に向けたメソッド化も進行中

テーマ 5

地域コ・クリエーション（共創）研究2016

本格的な人口減少時代を迎える日本。100年に１度とも言われる大きな時代の転換期に生きる私たち。複雑で誰も正解がわからない時代には、一人ひとりが本領発揮し、境界を越えて本質的に共創する「コ・クリエーション」が必要だと考えている。5年目を迎える本研究の最新状況と、本年度から始まった「メソッド化」について報告する。

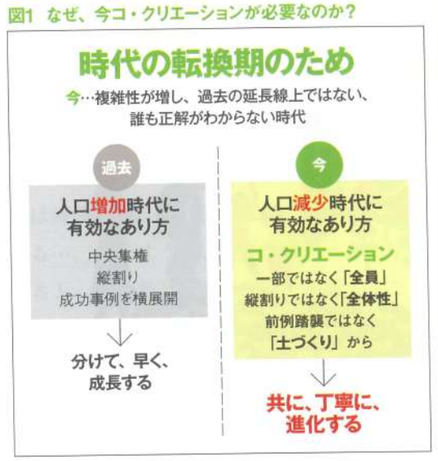
研究員
三田 愛
Ai Sanda

第１章　はじめに

なぜ私たちは、大崩壊の危機が目前に迫っていても、これまで通り日常が続くと思ってしまうのか？

本格的な人口減少時代を迎える日本。そして、100年に１度とも言われる大きな時代の転換期に私たちは生きている。『経済の衰退、資源の枯渇、気候変動、社会的な分断と戦争、生物種の大量絶滅…。冷静に考えると、私たちはいくつもの面で、これまでにない「大崩壊の危機」を迎えており、地球・生態系・人類・社会の持続可能性が脅かされています。日本だけでみても、国家財政、少子化、原発など、何十年も前から指摘されてきたのに、まったく解決されていない危機的な問題がいくつもあります。しかし、そうした問題があるにもかかわらず、私たちは日々焦ることもなく日常生活を続けている。なぜ私たちは、大きな危機が目前に迫っていても、これまで通りに日常が続くと思ってしまうのか。』これは、「コクリ！プロジェクト（地域コ・クリエーション研究のプロジェクト名称）」のホームページにて、インタビューで応えて頂いた、井上英之氏[※1]が持っている「問い」である。

図1　なぜ、今コ・クリエーションが必要なのか？



危機に心を向けるには、まず「自分自身としっかり繋がる」こと

『アクティブ・ホープ』[※2]に心理学者ビブ・ラタネとジョン・ダーリーの実験が紹介されている。この実験では、部屋に煙のようなものが流れ込んできたとき、「一人きりで部屋にいるときは素早い反応を見せ、部屋を出て助けを求めた」人が多いのに、部屋の中に数人いると、多くが煙の充満後も動かず、「実に三分の二以上の人たちが、研究チームの一人に『救出』されるまで、たっぷり六分間も作業を続けた」。多数の人が同じ状況を認識している場合は警戒心が発動されないという現象が見られた。私たちには、どうやらそうした心理的な傾向があるようである。一人ひとりがこうした危機に心を向けるには、まず「自分自身としっかり繋がる」ことが大切だと、アクティブ・ホープの著者ジョアンナ・メイシー、クリス・ジョンストン、そして井上氏も述べている。

現在５年目を迎える「地域コ・クリエーション研究（コクリ！プロジェクト）」の中でも最も特徴的な点は「自分自身の“根源的な想い（＝種火）”と繋がる」ことである。自分自身は何のために生まれたのか、存在意義は何か。どんな時に最も自分のエネルギーが最大化するのか。それなくして、コ・クリエーションは始まらない。

そしてもう一つの特徴が、「境界を越えた人・情報と繋がる」ことだ。それも繋がり方が大事。表面的な肩書で繋がるのではなく「根源的な想い（種火）」から繋がり合う。

コラボレーションとコ・クリエーションは似て非なるもの

“コラボレーション（協働）”と“コ・クリエーション（共創）”は似て非なるもの。いわゆる“産官学連携”とも違う。“コラボレーション”はお互いが今あるものを組み合わせて協働する。未来は予測可能で、計画的アプローチが可能。“コ・クリエーション”は「ありたい未来（北極星）」は描くが、未来は予測不可能。「根源的な想い」を共有しあった多様な人たちが、「今ここ」から未来を紡いでいく「生成的・偶発的アプローチ」。結果的に「予想だにしない未来」が現れる。複雑性が増し、過去の延長線上ではない、誰も正解がわからない、時代の転換期である現代には、コ・クリエーションは必須だと思っている。中央集権・縦割り・成功事例を横展開していた、分けて、早く、成長するあり方ではなく、一部の人が未来を考えるのではなく「全員」が関わり、縦割りで部分最適を考えるのではなく「全体性」を持って物事を捉え、前例踏襲ではなく「土づくり（関係性構築など）」から、共に、丁寧に、進化するあり方（コ・クリエーション）が有効だと考えている。（**図1**）

第２章　目的

多様な立場の人々が境界を越えて繋がり、各々の根源的な想いを自覚し本領発揮することで、学びと実践により新しい価値を共創し、人々が幸せに生きる持続可能な地域・社会の創造を目指す「コ・クリエーション」を、

①地域レベル コ・クリエーション

②地域間・日本レベル コ・クリエーション

での実証研究により、どんな繋がりが生まれ、結果何が起こっていくか、を検証する。また、コ・クリエーションの再現可能性を高めるために

③コ・クリエーションのメソッド化

に着手。コ・クリエーションを地域で起こすための原理原則を明らかにし、日本各地のコ・クリエーション促進の一助を目指す。

第３章　方法

現代は、表面的に見えている課題の解決だけでは、太刀打ちがいかない時代だと考えている。「コクリ！プロジェクト」では、氷山の一角、表面的な解決ではなく、氷山の下にある「裏の構造（しがらみ、対立、縦割り、分断etc）」や、その奥にある「個人の意識・メンタルモデル（恐れ・諦め・エゴetc）」に働きかけることで、氷山全体をゆっくり変革し

※1. 井上英之氏
INNO-Lab International 共同代表
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘准教授

※2. ジョアンナ・メイシー（著），クリス・ジョンストン（著），三木 直子（翻訳），榎本 英剛［翻訳協力］（翻訳）（2015）「アクティブ・ホープ」春秋社

テーマ 5

全国規模のコミュニティに拡大し、各地展開に向けたメソッド化も進行中

地域コ・クリエーション（共創）研究 2016

Papers by 三田 愛研究員

図2 コクリ!プロジェクトのアプローチ

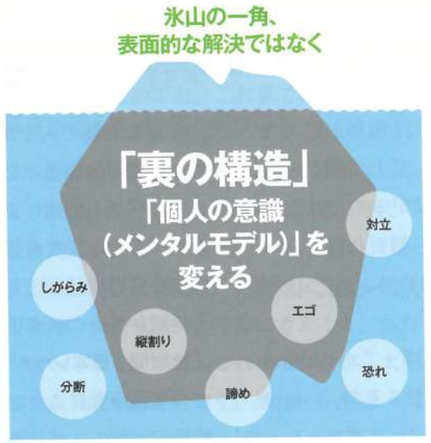


図3 成功循環モデル

結果の質を上げるためには、関係の質を上げることが鍵

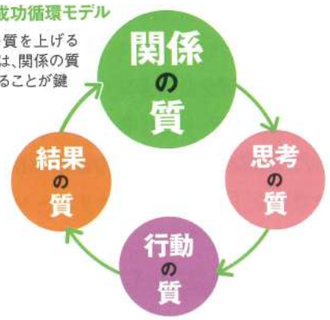
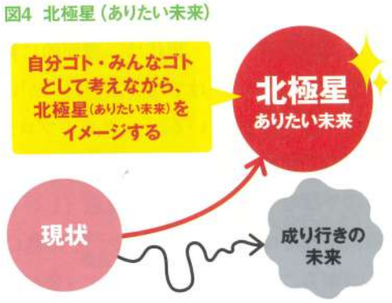
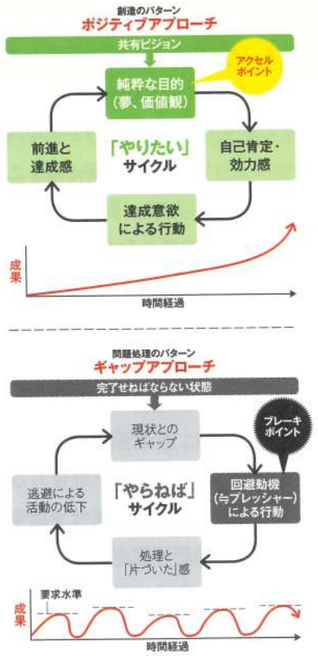


図4 北極星（ありたい未来）



北極星（ありたい未来）を設定するだけでも未来は変わる

図5 「やらねば」サイクルと「やりたい」サイクル



ていくアプローチをとる。（図2）

また、①地域内のしがらみ・対立、地域と都市の分断等がある中、「関係の質」を上げること（図3） ②問題処理型の「やらねば」サイクルではなく、未来創造型の「やりたい」サイクルで動くこと（図5） ③成り行きの未来にならないよう「北極星（ありたい未来）」を創ること（図4） を基本の考えとする。

①地域レベルのコ・クリエーション

・実証先：熊本県阿蘇郡南小国町黒川温泉

・期間：2012年5月～継続中

・概要：(1)世代間のコ・クリエーション

(2)地域内異業種コ・クリエーション

(3)地域と都市のコ・クリエーション

(4)共創と変革の活動基盤を創り、次の実践と学びを繰り返す

②地域間・日本レベルのコ・クリエーション

地域間コ・クリエーション

・対象：全国の地域変革者・チーム

・期間：2013年10月～継続中

・概要：年3回、毎回3日間の学びの場「コクリ！ラボ（地域コ・クリエーションラボ）」を実施。

また「境界を越えた人・情報との繋がり促進」のため、「コクリ！キャンプ（後述）」参加者等、多様な人・アイデアとの出会いの場を定期的に企画・実施

日本レベルコ・クリエーション

・対象：日本と地域の未来に「情熱・知恵・影響力」がある多様な方々

・日時：コクリ！キャンプ年１回実施（第一回2015年2月17日、第二回2016年2月24日）コクリ！プチキャンプ　年数回実施

・概要：「火を起こそう。100年後の未来はここから、変わる。」をキーワードに、年１回、属性や立場を超えたキーパーソン100人が一堂に集い、互いに刺激し合うシナリオのない共創の場を企画・実施。容易には解が出ない大きな課題を、100年後の未来が本当にありたい姿であるために、キャンプファイヤーを囲むように、情熱・知恵・影響力を持ち寄り、目の前にある大きな課題に変化を起こす社会実験を生み出す。

③コ・クリエーションのメソッド化

・概要：コ・クリエーションを全国各地で再現可能にするために、コ・クリエーションが起こる原理原則やステップを可視化。世界の組織変革の知恵を持つ高間邦男氏※3をアドバイザーに、過去5年間の「地域コ・クリエーション研究」結果から、他の地域・人でも再現可能な要素を抽出・整理を行う。

第４章　結果

①地域レベルのコ・クリエーション

新町長、新組合長誕生。開かれた地域へ

黒川・南小国（熊本県）では、現在コ・クリエーション4年目だ。コ・クリエーション（コクリ！）は終わりがない手法であり、地域も進化し続けるが、現状を報告したい。

詳細は過去のとーりまかしや研究年鑑※4を参考にして頂きたいが、コクリ！は「地域力診断※5」の結果により、親世代と青年部世代の認識ギャップが判明（青年部の危機感が顕著という結果）したことから始まった。黒川温泉は、30年前に閑古鳥がなく温泉地だった時から、現在の旅館経営者（親世代）たちの活発な活動により、120万人が訪れる人気温泉地になった背景がある。ただ、平成14年をピークに来訪者数が減少する中、強烈な成功体験を持つ親世代の下で、青年部世代は新企画を出しても親世代の賛同を得られず不安や閉塞感を感じていた青年部世代に「地域力診断」の結果で火が付いた。その後、多様な

※3. 高間邦男氏
(株)ヒューマンバリュー会長

※4. 黒川でのコ・クリエーションが掲載されているとーりまかし・研究年鑑：とーりまかし33号・38号、研究年鑑2014・2015

※5. 地域力診断
じゃらんリサーチセンターが研究開発した診断で、地域の強みと課題が可視化される。約300の診断項目により、元気な地域に必要な約30の要素を、自地域が持っているか否かの認識が診断される。詳細はとーりまかし研究年鑑2013、とーりまかし28号を参照

テーマ 5

全国規模のコミュニティに拡大し、各地展開に向けたメソッド化も進行中

地域コ・クリエーション（共創）研究 2016

Papers by 三田 愛研究員

ステークホルダーでのコクリ！セッションを月に1度行う中で、世代間（親世代×青年部世代）の関係の質が上がり、旅館組合の要職に若手が抜擢される。また、異業種（商店、近隣農家、町役場、県庁、NPOetc）とのコクリ！が進み、これまで旅館経営者中心のまちづくりで農家や役場の関わりがなかったが、「意見を言える関係と場」があることで、連携した企画が生まれていく。その後、都市の人（クリエイター、ビジネスプランナー、大学生etc）を「第二町民※6」として巻込み、地域×都市のコクリ！を行う。現在、共創企画を立ち上げる濃い関わりの人から、何かあったら応援する薄い関わりの人までのべ100人ほどの第二町民的存在がいる。

2013年に異業種（旅館・役場・農家・蕎麦屋・議員・製材所・福祉・ITetc）でのまちづくりNPO法人を設立。業界団体ではない「中立的」な存在として、地域内外の「ハブ機能」として、まちの人の想いに火をつけるセッションを企画実施したり、都市の人とのコクリ！を推進する活動基盤になっている。

変革に弾みがついてきた彼らは、経済だけでなく政治も動かし始めた。16年間同じ町長であったが、若手から町長を出そうと、上記NPO理事（42歳）が2015年4月、町長に出馬。当初は40代の町長への理解は少なかったが、NPOメンバーを中心に、町の30～40代で応援団を結成。結果的に町民からの信認が集まりダブルスコアで当選。また5月、黒川温泉旅館組合の組合長に史上最年少で初の女性（37歳）が就任。理事全員30～40代（平均年齢38.6歳）になり、30～40代がまちづくりの中心世代へと確実に移行した。

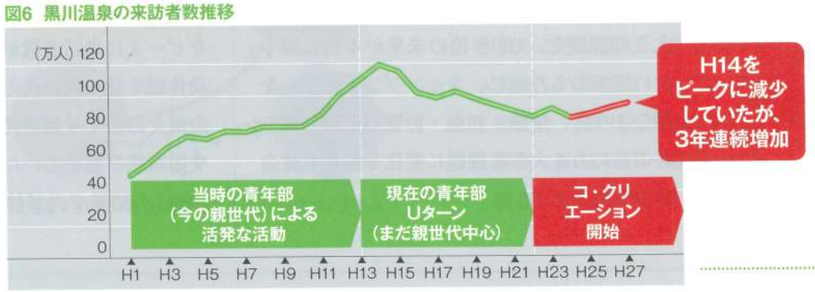
30～40代のみの旅館組合理事

42歳の新町長就任

都市とのコクリ！も更に進化。「都内クリエイター×黒川」で行われた、世界に向けた合同ポートフォリオ制作企画『KUROKAWA WONDERLAND』※7では、地方が抱える課題に、クリエイティブがどのような解を導きだせるのかに挑戦。結果、パリやロサンゼルスなど世界15カ所でアワードを受賞。その後、滅びかけていた120年の地元文化「吉原神楽」は、本作品のテーマになったことをきっかけにミラノ万博に出演、日本最大級のデザイン祭典「Tokyo Design Week」ステージに異例の地方からの出演、地元の小国杉とクリエイターによるコラボ作品企画等、変化は継続中。

4年前には考えられなかった開かれた地域、変革する地域へと変貌を遂げており、来訪者数も3年連続増加中である（**図6**）。

図6 黒川温泉の来訪者数推移



※6. 第二町民
地域外の人を“お客さん”ではなく“第二の町民”のような関係として迎える考え方。長野県小布施でも取り入れられている

※7. KUROKAWA WONDERLAND
日本の地方と都内クリエイターが、互いが持つリソースを最大限共有し創られた、伝統と映像・Web・音楽・写真のコラボレーション
Web：http://vkurokawawonderland.jp/
映像：https://vimeo.com/122172620

図7 地域コ・クリエーションラボ（コクリ!ラボ）参加地域

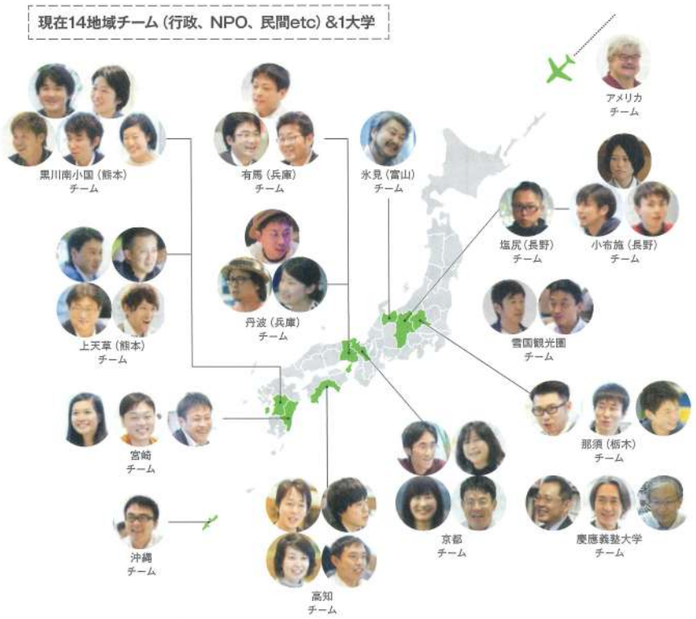


図8 コクリ!キャンプ参加者

国・政府機関
内閣官房／経済産業省／中小企業庁／観光庁／農林水産省／総務省／衆議院議員／水産庁

首長・地方自治体
兵庫県丹波市／兵庫県西宮市／長野県小布施町／長野県塩尻市／高知県四万十町／和歌山県有田市／京都府／京都市／宮崎県日南市／高知県／富山県氷見市／宮城県気仙沼市／熊本県上天草市／熊本県南小国町

NPO・公益法人・団体
NPO法人まちづくりGIFT／ NPO法人ETIC.／NPO法人ミラツク／ NPO法人場とつながりラボhome's vi.／いわきおてんとSUN企業組合／㈳次世代社会研究機構／NPO法人吉備野工房ちみち／HUG Space

大学・大学院・研究機関
慶応義塾大学・大学院／多摩大学大学院／大阪学院大学／宮城大学

大学生
慶応義塾大学

民間企業
㈱三越伊勢丹ホールディングス／ ㈱富士通研究所／㈱パソナ／ヤフー㈱／ ㈱文祥堂／㈱コスモスイニシア／NEC／㈱日立製作所／九州旅客鉄道㈱／ランサーズ㈱／リクルートグループ

クリエイター
NOSIGNER／㈱レターズ／デザイナー／㈱イグジットフィルム／Tokyo Lighting Design／㈱ヘレティックアンセム／ライター・エディター／フォトグラファー

専門家（コンサルタント・僧侶・通訳etc）
㈱フューチャーセッションズ／オーセンティックワークス㈱／㈱バリュー・クリエーション・サービス／New Stories／サンワード・ラボ㈱／㈱ヒューマンバリュー／㈱チェンジウェーブ／ボストンコンサルティンググループ／浄光寺／㈱trippiece RETRIP／TED×Tokyo／社会を変えていく人が集う場を創るhome仕掛け人／ハバタク㈱／通訳／㈱グローバルコーチング

メディア
フジテレビ／よしもとクリエイティブ・エージェンシー／NHKエンタープライズ／greenz.jp／㈱博報堂／朝日新聞英治出版㈱

地域産業
京都観光おもてなし大使／塩尻商工会議所／㈲御客屋旅館／ ㈱いせん／（株）ルーツ／㈱巡の環／㈲三陸とれたて市場／黒川温泉青年部／㈱山水閣／㈱里山ホテル

農業・漁業・林業
㈲菁井園／山形ガールズ農場／㈱太陽農場／㈱えと菜園／㈳フィッシャーマン・ジャパン／㈱ようび

IT
面白法人カヤック／㈳コード・フォー・ジャパン／村式㈱

金融
野村證券㈱／ミュージックセキュリティズ㈱

医療
国立保医療科学院／有田市立病院／㈱アクリート・ワークス

②地域間、日本レベルのコ・クリエーション

地域間コ・クリエーション

「コクリ！ラボ」には、各地域から多様性があるチーム（行政、NPO、民間etc）で参加（**図7**）。現在、14地域と1大学のメンバーが集まっている。自主的な動きが増え、2015年10月には京都チーム主催で、京都にて「コクリ！京都」を開催。「京都の伝統と革新から学ぶコクリ！の真髄」をテーマに、京都の仕掛け人に“根源的な想い”や“北極星（ありたい未来）”を聞く「コクリ！京都ツアー」や、20人以上の京都のまちづくりのキーパーソンと、総勢50人での「プチキャンプ」を行った。門川京都市長に公の場ではあまり話さない“根源的な想い”の話をして頂き、全国のラボメンバーは大きな刺激を受けた。

各地域間のコクリ！も進行しており、宮崎チームと丹波チームでローカルメディアの協働プロジェクト等が立ち上がっている。

全国規模のコミュニティに拡大し、各地展開に向けたメソッド化も進行中

テーマ 5

地域コ・クリエーション（共創）研究 2016

Papers by 三田 愛研究員

日本レベルコ・クリエーション

「コクリ！キャンプ」では、想定以上の多様な人々が集結。各省庁・自治体・NPO・大学・民間企業・クリエイター・専門家・メディア・地域産業・一次産業・IT・金融・医療etc.大学生から60代まで130人が集まった（**図8**）。

当日出席率98%、自分の想いや考え方への変化があった参加者88%、コクリ！キャンプでの出会いをきっかけとしたアクション・アイデアの数87件と様々な種火が生まれた。例えば、長野県塩尻市役所と、チェンジウェーブ、ソフトバンク、リクルートの共創により企画・実施された「地方創生協働リーダーシッププログラム」は、市職員と両社社員約30人が「IT基盤活用」「空き家対策」「子育て中の女性の復職支援」など市の課題解決策を提案。市は企業と連携した初の政策立案、企業は幹部候補の新しい若手社員育成となった。

③コ・クリエーションのメソッド化

コ・クリエーションを起こすためには、大きく3つのステップがある。概略を示したものが「予想だにしない未来を生み出す『コクリ！を起こす“3+1”』（**図9**）」だ。

まず❶自分自身の【『根源的な想い=種火』を自覚する】ことから全ては始まる。自分は何のために生きているのか、存在価値は何か、何をしているときが一番ワクワクするのか、“やりたいサイクル”で動く時はどんな時かetc。自分の根源的な想いに繋がると、人は底知れぬエネルギーが噴出する。地域の場合「地域愛」に繋がることが多い。人は「愛の力」に繋がることで、エゴや恐れを手放し、本質的な行動をとるようになる。

次に❷【境界を越えて繋がる】。地域内の境界（行政、市民、民間、NPOetc）や、地域間の境界、地域外の境界（都市、国、大企業、大学、地域etc）を越えて、繋がる。表面的に肩書で繋がるのではなく「根源的な想い」で繋がることが重要だ。それにより、他人ゴトが、自分ゴト・みんなゴトになっていく。どうしても通常の関係内や地域内だけだとリソース（人・知恵含む）が限られる。境界を越えて新たなリソースに繋がることが新しいイノベーションを可能にする。

次に【北極星（ありたい未来）】を見ながら、❸【感性に従い、まずやってみる】。すぐに現実可能でなくても、遠い未来に達成したい「北極星（ありたい未来）」を定めることがとても大切だ。地域づくりは1，2年でできることはほぼなく、10年30年50年かかるもの。だからこそ、短期的な未来だけでなく長期的な未来を描くことが重要だ。そして「今ここ」に集中し、感性を大事に今あるものから未来を創る。それは計画的なものではなく、偶発的で生成的なものだ。そして「まずやってみる」。誰もが正解がわからない時代。まず動いてみないと何もわからない。物事には正解も失敗もなく、全てから学ぶことにより、また自分の、仲間の想いが深まり、次のサイクルに入る。

❶の根源的な想いを自覚した人が❷境界を越えて繋がることで、「安心安全」「信頼」の土壌が生まれ、人は恐れを手放し、「愛から行動」できるようになる。また❸を「ワクワク楽しく挑戦する」こと、「情熱と覚悟を持ち続ける」ことが大事だ。このサイクルが回ることで、「エネルギーが内から湧き出し続け」、サステナブルに続いていく。

共創による地域づくりを行うガイド

このコクリ！が起こるための要素を、より詳細のステップとして紹介したものが、「『コクリ！サイクル』-共創による地域づくりをおこなうためのガイドマップ-（**図10**）」だ。文章量の都合で簡単にだけご紹介させて頂く。

コ・クリエーションの専門家「コクリエーター※8」が関わる場合、まずコクリエーター自身が自分の「根源的な想いを自覚」することから始まる。なぜその地域と関わりたいのか、自分はなぜコクリエーターをしているのかetc。その上で「情熱と覚悟」を持って、地域内の「チェンジ・エージェント（変革の担い手※9）」と繋がる（❶）。チェンジ・エージェントはコクリエーターとの対話の中で、自身の「根源的な想いを自覚」し、地域への「情熱と覚悟」が芽生え、新たな仲間「コアチーム※10」メンバーと繋がる（❷）。コアチームメンバーも、

※8. コクリエーター
地域のチェンジ・エージェントの目覚めをサポートする“コーチ”であり、地域の人たちの力を拡大させる“ファシリテーター”であり、地域外の人脈を数多く持ち、地域に必要な人を繋げる“コネクター”でもある。

※9. チェンジ・エージェント
地域の未来に向けて、情熱・知恵・影響力があり、覚悟を決めている“変革の担い手”。コクリエーターは地域のチェンジ・エージェントを探すところからが仕事。

図9 予想だにしない未来を生み出す「コクリ!を起こす“3+1”」

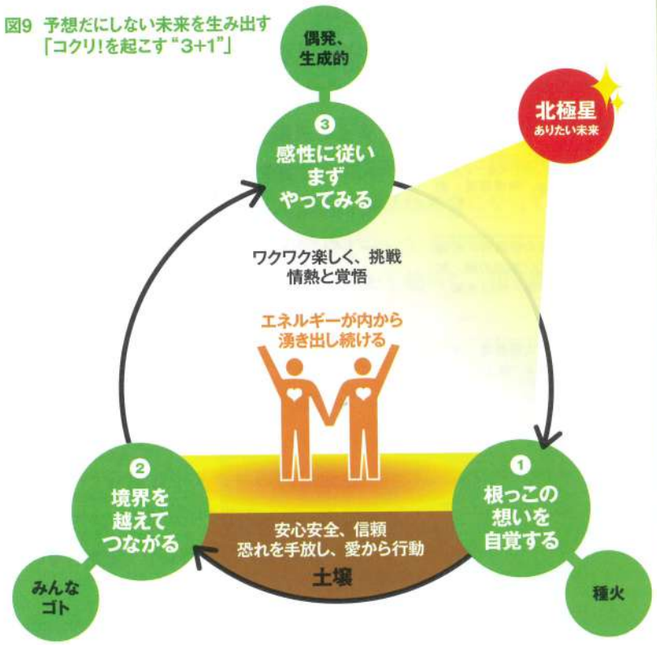
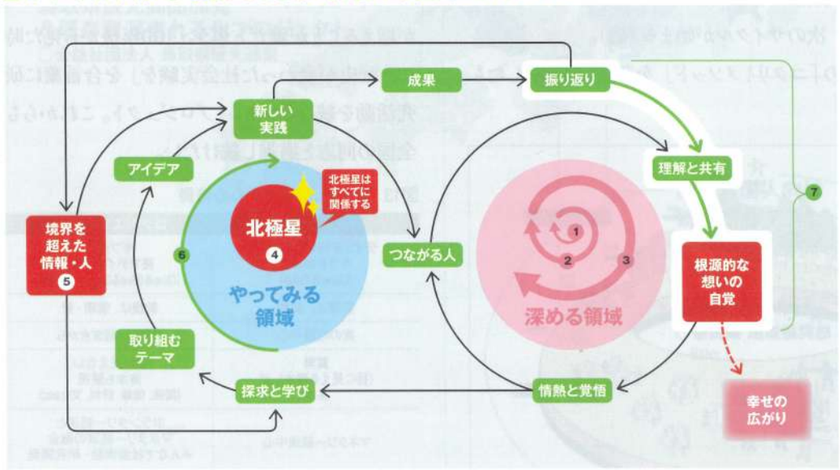


図10 『コクリ!サイクル』-共創による地域づくりをおこなうためのガイドマップ-



※コクリエーターは全体をホールドします

図11 コクリ!メソッドが書かれた「コクリ!の手引き」

テーマ 5

全国規模のコミュニティに拡大し、各地展開に向けたメソッド化も進行中

地域コ・クリエーション（共創）研究 2016

Papers by 三田 愛研究員

自分たちの根源的な想いを自覚することで、チームとして情熱と覚悟が生まれる（❸）。ここまでの【深める領域】の上で、【やってみる領域】が始まる。上記でも触れた「北極星」を定め（❹）、「探求と学び」から、自分たちが「取り組むテーマ」を決め、「アイデア」が出たら「新しい実践」をしてみる（❻）。ここでコ・クリエーションの特徴となるのが「境界を越えた情報・人（❺）」だ。コクリエーターは常に地域の状況やチェンジ・エージェント、コアチームの状況を見ながら、“北極星”を可能にするため、また地域内の人たちに刺激を与えるような情報・人を考える。地域内にはない情報・人をうまく繋げ、新たな化学反応を起こしていくのだ。その時に大事なのは、いわゆる“先生”のように上から物事を教えるタイプではなく、“仲間”としてお互い信頼・尊敬を持って関わるだろう人を選定することだ。そして、実践の「成果」を「振返り」をすることで新たな「理解と共有」が生まれ、「根源的な想い」がより深まり、次のサイクルが始まる（❼）。

この「コクリ！メソッド」を詳しく記載をしたものが「コクリ！の手引き」だ。現在、鋭意作成中で、来年度発表できれば、と思っている。（**図11**）

※10. コアチーム
1人で地域は変えられない。少なくとも「3人」の「想いに共感」した「多様なチーム」を創ることが大事だ。

第5章　考察

最終的に私が創りたい未来は「人と社会と地球が調和」した、「コクリ！エコシステム（生態系）（**図12・図13**）」を創ること。それは資本主義や貨幣経済だけでない世界。世の中の人は全て一人ひとり“ギフト”を持って生まれてきている。そして、全ての人に“役割”がある。そのギフトが最大本領発揮した時、一人ひとりが「あぁ、このために自分は生まれてきたんだな」という根源的な想いを自覚し、存在意義と各々の北極星を握りしめて生き切った時、世界は一番いい状態に進化すると信じている。100年に一度ともいわれる転換期に生きる私たちにとって、1000年後の未来へもいいバトンとなるために。それには「（全ての人が既に持っている）“愛”から行動する人」が増えることが鍵だと思う。「100年後から見た時に、歴史が変わった社会実験を」を合言葉に研究活動を続けるコクリ！プロジェクト。これからも全国の同志と邁進し続けたい。

図12　コクリ！エコシステム

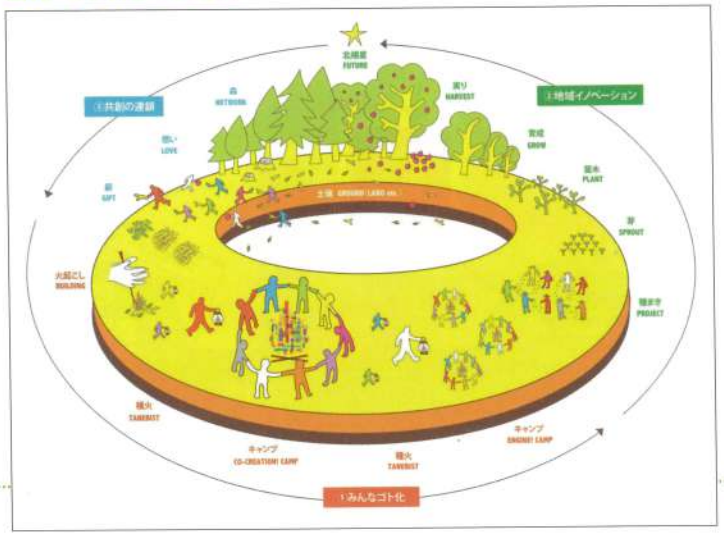


図13　コクリ！エコシステムの特徴

一般的	コクリ！エコシステム
テイクが何かを考えて、ギブを決める（Give&Take）	**ギブが先** 後でテイクがくる （Give&Give&Give…&Take）
前提は、契約	前提は、**信頼・愛**
実の収穫中心	**土創り・種まき**から
貨幣（目に見える資本）が基本	**「目に見えない」資本**も重視 （関係、信頼、評判、文化etc）
マネタリー経済中心	**ボランタリー経済と** **マネタリー経済**の融合 みんなで**社会実験**・研究開発